

バレエ『眠れる森の美女』の舞台衣装のデザイン・制作

—青い鳥とフロリナ姫の衣装—

富田 弘美

『眠れる森の美女』第3幕の内容であるバレエ公演『オーロラの結婚』に登場する青い鳥とフロリナ姫の衣装デザイン・制作を目的として文献等調査による物語の把握、演目と演出、衣装制作の材料と工程、舞台上での確認等を行い、以下の結果を得た。

ペローの『眠れる森の美女』やメルヘン的なグリムの『いばら姫』、さらに『青い鳥』の物語を把握してデザインを発想した。恋人同士の青い鳥とフロリナ姫の衣装をペアーデザインでパートナーを強調し、濃いブルーのペロアと羽根素材を基調にした。

これらの衣装は、2014年12月4日、5日シアター1010にて使用し、舞台ではダンサーの動きを妨げることなく、濃い色調のブルーが引き立ち、王女としての胸元のストーンが照明で輝き、ペアーデザインであることが明快であった。また、しなやかなダンスの動きも伴って物語のような愛し合う二人を表現することが出来た。

キーワード：バレエ 舞台衣装 青い鳥 フロリナ姫

1. はじめに

バレエ『眠れる森の美女』は1890年、振付はマティウス・プティパ、音楽はピョートル・チャイコフスキーによりサンクトペテルブルクの帝室マリインスキー劇場にて初演され、その後、多くのバレエファンを魅了している作品である。

そこで、『眠れる森の美女』第3幕の内容として、構成・演出・振付は中原由美子氏によって『オーロラの結婚』が2014年12月4日、5日、シアター1010に於いて開催された¹⁾。

舞台衣装に関する研究では、オートクチュールデザイナーによる歌手の衣装や、衣装がいかにか舞台上の人物を表現するかという衣装の価値についての報告などはみられるが^{2) 3)}、バレエ衣装のデザインおよび制作についてはみられない。

本報では、『眠れる森の美女』に登場する王女オーロラの婚礼の場面である『オーロラの結婚』に来賓として招かれるおとぎ話のキャラクター、

すなわち、「青い鳥とフロリナ姫」「シンデレラ」「白猫と黒猫」「赤ずきんと狼」など7点の衣装を制作したが、その中から「青い鳥とフロリナ姫」の2点についてデザインおよび制作に関して報告する。

2. 方法

(1) 衣装デザインの設定

①『眠れる森の美女』の物語の把握

物語の把握では、グリム童話集、シャルル・ペローの童話集^{4) 5) 6)}などを参考にした。また、バレエ団のDVD^{7) 8)}や実際に劇場にて公演を鑑賞して⁹⁾、役柄、衣装の色彩と素材の効果、演出効果、登場者の順序、組み合わせや人数などを確認した。

②演目内容と演出等の打ち合わせ

振付、演出、演技指導の意向やヘアスタイルとの組み合わせ、身体の動き、出演順序、出演前準備等を考慮して著者がデザインした。

③青い鳥とフロリナ姫の衣装デザインの発想

青い鳥とフロリナ姫では、書籍¹⁰⁾と前述のDVDを参考にしてデザインを考えた。

(2) 衣装制作の流れと衣装確認

①衣装制作の流れ

デザインコンセプトの設定、材料設定、デザイン画作成、身体サイズの採寸、パターンメイキング、材料調達、仮縫い合わせ、1回目のフィッティング、補正と修正、本縫い、2回目のフィッティングを行って仕上げた。

②舞台上での衣装確認

舞台上の練習では、バストやウエスト寸法の確認、ダンサーの動きによる衣装の確認、照明による衣装の色彩の確認などをし、修正や補正を行って衣装の管理をした。

3. 結果および考察

(1) 物語の把握

①『眠れる森の美女』のあらすじ

物語のあらすじは、第1幕、第2幕で邪悪なカラボスは、オーロラ姫が16歳の誕生日に「糸紡ぎの針に刺されて死ぬだろう」と呪いをかけ、善のリラの精は「100年間の眠りについた後、王子が口づけをして王女は目を覚ますでしょう。」と予言した。第3幕では、眠りから目覚めたオーロラ姫と王子の婚礼の場面で、祝福する宝石の妖精、各国からの来賓、おとぎ話の主人公のシンデレラ、赤ずきん、白猫、青い鳥とフロリナ姫などが招待されて、華麗なダンスが繰り広げられた。

②『眠れる森の美女』の原作

『眠れる森の美女』という題名は、17世紀のフランスの作家、シャルル・ペローが付けた。また、伝承のおとぎ話に加筆して1697年に『過ぎし日の物語あるいは昔話 教訓つき：Histories or tales of past times told by Mother Goose with morals』を出版し、その中に「シンデレラ：Cinderella or The Little Glass Slipper」「赤ずきん：Little Red Riding-Hood」「眠れる森の美女：The Sleeping Beauty in the wood」などが収められていた¹¹⁾。

一方、ドイツのグリム兄弟の物語では、『いばら姫』（初版1812年）と呼ばれ、王子が口づけをすると100年の眠りから覚めて二人は結ばれ、死ぬまで楽しく暮らしたとメルヘン的、神話的に表現されていた。しかし、ペローの物語では王子は

口づけをせずに、ただ100年経ったので目覚めたことになっており、さらに、王子の母親は人食い種族である恐ろしい内容で、反メルヘン的であった。

バレエでは、題目をペローからとり、あらすじはグリムから採用されていた^{12) 13)}。

③青い鳥とフロリナ姫のあらすじ

『青い鳥』のあらすじは、ある国の王様にはフロリナという大変美しく可愛い娘がいた。シャルマン王はフロリナ姫に一目惚れをするが、継母の王妃は妬んで、フロリナ姫を高い塔に監禁し、シャルマン王を青い鳥に変えてしまった。

青い鳥は夜になると塔のフロリナ姫に会いに来て、口づけをし、二人は恋人のように愛を語り合った。しかし、それを知った王妃はさらに妬んで青い鳥の羽を傷つけ、二人が会えないようにした。悲しんだフロリナ姫は青い鳥を探すために旅に出て、やっとの思いで再開し、幸せに暮らすことができた。

この『青い鳥』は、1698年オーノワ夫人がサロンや宮廷に集う貴族の女性たちのために書いた『新妖精物語』4巻、全24編の一つであった^{10) 14)}。

(2) 青い鳥とフロリナ姫の衣装

①デザインコンセプト

図1に示す青い鳥(男性)とフロリナ姫(女性)の関係は、愛し合う恋人同士なので、ペアデザインでパートナーであることを強調した。また、青色の濃い色調であるストロングトーンを基調にして大人の落ち着きをもった雰囲気表現した。さらに、青い鳥では、鳥をイメージさせるために衿ぐりから胸にかけて羽根を付け、女性のチュチュにはパートナーをイメージさせるために、羽根の形を模したオーガンジーの飾り布を付けた。

②材料

舞台衣装は繰り返し着用し、大量の汗をかき、激しい動きなどが伴うために、裏うち布として水通しをしたやや厚手の木綿生地(白、ツイル)を使用した。

身頃は、男女共にロイヤルブルーのペロア(ポリエステル100%)を用いた(図2)。女性の胸元にはシルバー色のスパンコールやストーンを付け



図1 青い鳥 (左) とフロリナ姫 (右) のデザイン画

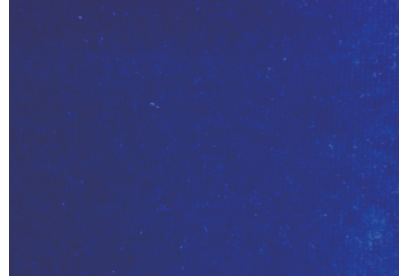


図2 身頃素材のペロア

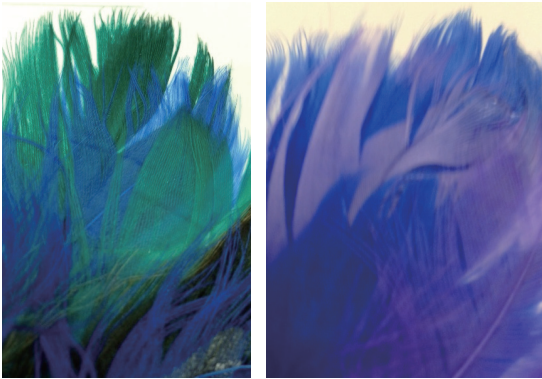


図3 羽根の混合 (左) 青・緑、(右) 青・紫

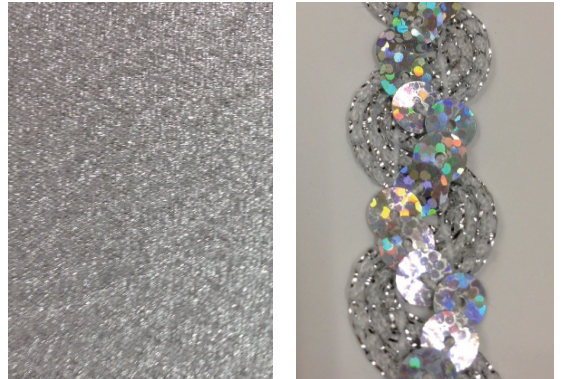


図4 銀色のラメ (左)、スパンコール (右)

た。袖飾りには30Dのチュールを用いた。女性の身頃裾と衿ぐりには、共色で1cmのバイヤステープを使用した。

また、男性の胸飾りは、青、紫、緑、茶色のガチョウの羽根を混ぜ合わせ、スパンコールのブレードを使用し(図3、図4)、頭飾りにも約16cmのガチョウの羽根を1本使用した。

男性のタイツは、市販の水色のもの(Malakhov Men's Pattern Order、ベビーブルー RK-82、No.3748-11402)を使用した¹⁵⁾、バレエシューズ(グリシコ、43B)は、布用染色スプレーでタイツの色に似せて着色した。

女性のチュチュはブルーのチュール(50D、30D、ポリエステル100%)で、パンツ部分は図5の

水色のパワーネット(ナイロン80%、ポリウレタン20%)、ウエストには伸縮性のある3cm幅のインサイドベルト、パンツの裾用には1cm幅のバイヤステープと平ゴムを使用した。

羽根型の飾り布はオーガンジー(ポリエステル100%)である(図6)。髪飾りのティアラは水色、クリスタル、パール色、シルバー色のビーズを使用した¹⁷⁾。

③衣装の製図と制作

③-1 青い鳥の衣装

図7に示すように、男性の青い鳥の衣装は後ろ開きで、カギホックと糸ループによりサイズ調整をしやすいとした。胸元の羽根飾りの部分は、ブルーのチュール2枚重ねで土台を作り、4色の羽根を



図5 チュチュのパンツのパワーネット

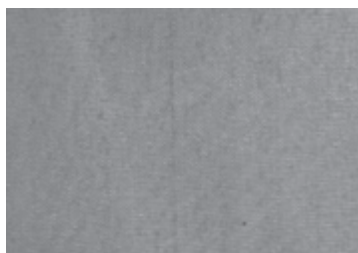


図6 チュチュのオーガンジーの飾り布

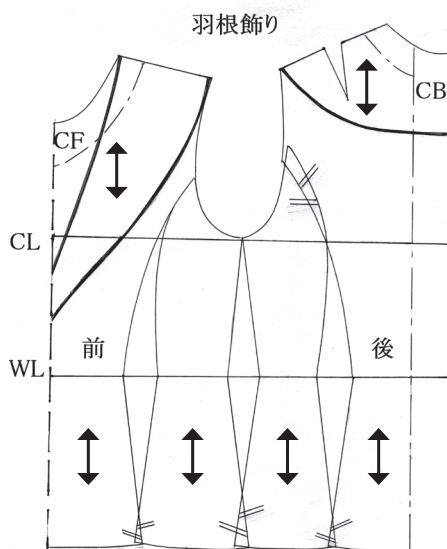


図7 青い鳥の身頃の製図

混ぜ合わせてグルーガンで貼り付けた(図14)。この際、羽根の中心の軸の根本(羽軸根)部分は、硬く尖っており、激しい動きでは危険なので切り落とした。羽根部分の輪郭は、シルバーのスパンコールのブレードで縁取った。

図8は青い鳥の袖である。袖底には、上肢の運動機能性を持たせてバイヤスのマチを入れた。

③-2 フロリナ姫の衣装

身頃はローウエストスタイルで、身体にフィットさせるために7枚の型紙で構成した。裾と衿ぐりはバイヤステープで処理した。開きは後ろにあり、男性と同様にホックと糸ループによってサイズの調整をしやすいにした。胸元には、スパンコール、ストーンを付けて華やかにした。肩甲骨の張りによる後ろ身頃の緩みは、カーブの縁に穴糸で千鳥がけをし、その中に平ゴムを通してフィットするように縮めた。

袖飾りは、縦10 cm×横50 cmのチュールを輪にして上部にゴムを入れ、袖口は1.5 cmの正三角形でギザギザに切って軽やかにした。

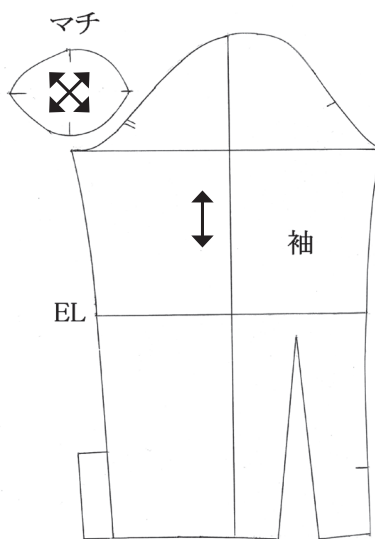


図8 青い鳥の袖の製図

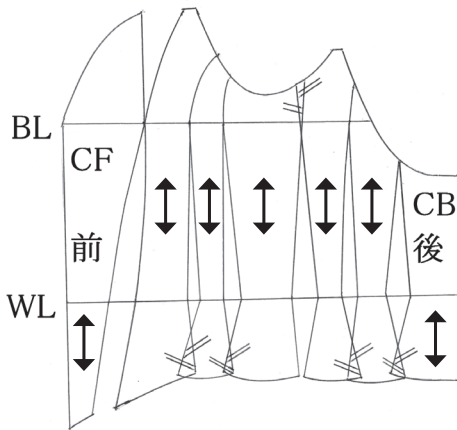


図9 フロリナ姫の身頃の製図

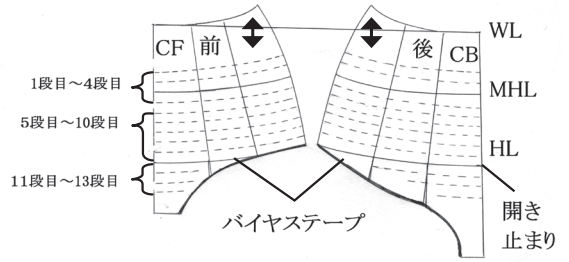


図11 パンツの型紙とチュールの付け位置

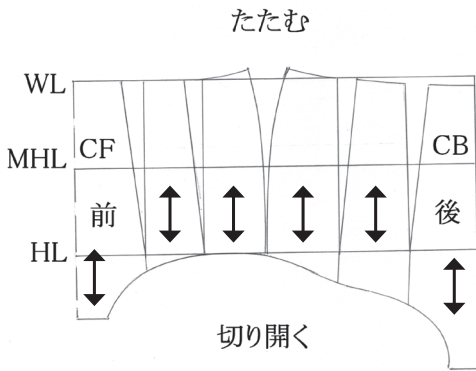


図10 チュチュのパンツの製図

表1 チュールの使用量

	種類	長さ (cm)	120cm 幅枚数	段数別 合計 (cm)	種類別 合計 (cm)
1 段目	50D	40	7	280	1143
2 段目	50D	37	6	222	
3 段目	50D	33	5	165	
4 段目	50D	29	5	145	
5 段目	50D	25	4	100	
6 段目	50D	21	4	84	
7 段目	50D	17	4	68	
8 段目	50D	13	4	52	
9 段目	50D	9	3	27	
10 段目	30D	6	3	18	34
11 段目	30D	5	2	10	
12 段目	30D	3	1	3	
13 段目	30D	3	1	3	

パンツの型紙は、図10の製図に示すようにWLで製図上でたたみ、裾で切り込みを入れると図11のようになった。パンツの縫製は両脇を縫い、後ろ中心は開き止まりまで縫い、裾は1 cm幅のバイヤステープで始末してその中にゴムを通した。

表1はチュールの使用量を示している。9段目までは50Dのチュールで、10段目からは30Dを使用し、合計約12m使用した。チュールは各段の長さ（WLの縫い代1 cm含む）と枚数を裁断し、裾は6段目まで3 cmの正三角に切り、7段目からは1.5cmに切って軽やかにした。

さらに、各枚数を接ぎ合わせてギャザーまたはタックを寄せ、図11の点線1段目から4段目までは、張りを出させるために縫い代を下に向けて縫い付け、5段目からは上に向けて付けた。11段から13段はパンツの開き止まり下と股底（股上の止まり位置）を縫ってから縫い付けた。

ウエストは、3 cm幅のインサイドベルトを縫い付けて、ホックと糸ループを付けた。

チュチュの飾り布は、図12の羽根型のオーガージー2枚とモアレ縞が出ないように30Dのチュールを1枚挟んで中縫いしてから表に返し、身頃のローウエスト位置寸法に合わせて13枚を円形に並べて縫い付けた。

身頃との縫合は、1段目のチュールの付け位置に身頃の裾を合わせて手縫いで留めた。

ティアラは、バレエ専門雑誌の小物制作特集を参考にした¹⁶⁾。

④完成した衣装とバレエ公演

青い鳥の衣装は肩幅を広くし、羽根飾りも肩から胸まで大きく広げて力強さや包容力のある堂々とした青い鳥を表現することができた。羽根飾りでは、青、緑、紫、茶色の羽根を混ぜ合わせたので、舞台上で深みのある色合いが華やかであった(図13、図14、図19)。

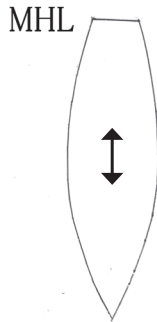


図12 羽根型のチュチュの飾り布



図13 青い鳥の衣装 (前) (後)



図14 青い鳥の胸元の羽根飾り



図15 青い鳥の頭飾り



図16 フロリナ姫の衣装 (前)



図17 フロリナ姫の衣装 (後)



図18 フロリナ姫のティアラ



図19 バレエ・フレイグランス公演
『オーロラの結婚』
撮影：和田 修

また、青い鳥の髪飾りは、銀色のラメ素材と黒のバイヤステープのバンドに約16cmのガチョウの羽根を1本縦に縫い付けた(図15)。

フロリナ姫のクラシックチュチュは、胸元に付けた銀色のストーンとスパンコールが照明で輝き、王女の役柄を映し出していた。また、チュチュの飾り布の羽根を模したオーガンジーは、青い鳥の羽根をイメージさせ、ペアーデザインとして調和させていた。また、素材、色彩などを統一させることで、高い塔に監禁されて青い鳥を待ち焦がれるという物語を思い起こすような愛し合う二人を表現していた(図16、図17、図18、図19)。

図19は、2015年12月4日、5日シアター1010にて、中原由美子氏による構成・演出・振付のバレエ・フレイグランス公演『オーロラの結婚』である。ダンサーは、青い鳥が松田耕平(牧阿佐美

バレエ団)、フロリナ姫が越智ふじの(井上バレエ団)である。また、ダンサーの動きを妨げることがなく、衣装はペアーデザインであることが明快であり、濃い色調のブルーが引き立ち、胸元のストーンが照明で輝いていた。

今後の課題としては、男性の動きが大変激しいために裏身頃全体に大量の汗をかいていた。当日の楽屋では乾かしながら使用していたが、効率の良い方法について今後工夫が必要である。また、一般にダンサーは、公演が近づくとウエストやバスト寸法に変更が生じるものである。ホックと糸ループによる方法は簡単な対処法ではあるが、他の方法も検討していきたい。

4. まとめ

『眠れる森の美女』第3幕の内容であるバレエ・フレイグランス公演『オーロラの結婚』に登場する青い鳥とフロリナ姫の衣装デザインおよび制作を目的として、文献等調査による物語の把握、演目内容と演出、衣装制作工程、舞台上での確認などを行い、以下の結果を得た。

- ①『眠れる森の美女』という題名は、フランスのシャルル・ペローが付けたが、物語は恐ろしい内容があつて反メルヘン的であつた。一方、ドイツのグリム兄弟の物語では、『いばら姫』と呼ばれ、メルヘン的、神話的に表現されていた。バレエでは、題目をペローからとり、あらずじはグリムから採用されていた。
- ②『青い鳥』は、1698年オーノワ夫人がサロンや宮廷に集う貴族の女性たちのために書いた物語であつた。あらずじは、愛し合うシャルマン王とフロリナ姫を妬んだ継母に青い鳥に変えられた王を探しに旅に出た末、二人は幸せに結婚した。バレエ公演では、オーロラの結婚の場面にこの二人が招待客として登場した。
- ③衣装デザインコンセプトは、青い鳥とフロリナ姫は恋人同士なので、ペアーデザインでパートナーであることを強調し、色の濃い色調であるストロングトーンを基調にして、大人の落ち着きのある雰囲気表現した。
- ④衣装デザインと制作では、男性の衣装は青い鳥をイメージさせるために、衿ぐりから胸にかけ

て4色の羽根飾りをつけた後ろ開きの上着にした。女性の衣装はクラシックチュチュのスタイルで、チュチュの部分にパートナーをイメージさせる羽根の形を模したオーガンジーの飾り布を付けた。また、王女であることを表現するために、胸元にはストーンやスパンコールを付け、頭飾りにはティアラをのせた。

⑤バレエ公演『オーロラの結婚』は、2015年12月4日、5日、シアター1010において中原由美子氏による構成・演出・振付で開催された。舞台上では、青い鳥とフロリナ姫のダンサーのしなやかな動きと共にペアデザインであることが明快で、濃い色調のブルーが引き立ち、胸元のストーンが照明で輝いていた。

参考文献

- 1) 中原由美子：バレエ・フレイグランス公演 オーロラの結婚、ラプソディー プログラム (2014)
- 2) 砂長谷由香 小橋宏美：舞台衣装にみるオートーニナ・リッチのアシメトリーベアトップドレス。服飾文化学会 (作品編) 6 : 47-55 (2013)
- 3) 佐々井 啓：舞台衣装と流行。実践英文学62 : pp.59-67 (2010)
- 4) 野村 滋 (訳)：完訳グリム童話集3. pp.27-37 (筑摩書房、東京、2006)
- 5) シャルル・ペロー：ペローの昔ばなし。今野一雄 (訳)：pp.13-49 (白水社、東京、2007)
- 6) 新倉朗子 (訳)：完訳ペロー童話集. pp.175-173 (岩波書店、東京、1982)
- 7) 英国ロイヤル・バレエ団：眠れる森の美女.コヴェント・ガーデン・ロイヤル・オペラ・ハウスDVD 日本コロムビア株式会社 (1994)
- 8) キーロフバレエ団:The Sleeping Beauty.キーロフ歌劇場DVD ワーナーミュージックヴィジョン (1982)
- 9) モスクワ国立ロシアバレエ団：公演 眠れる森の美女 全幕 立川日露文化交流協会 (2014)
- 10) アンドリュウ・ラング (編)：アンドリュウ・ラング世界童話集第3巻 みどりいろの童話集.西村醇子 (監) . pp.7-55 (東京創元社、東京、2008)
- 11) 国立国会図書館デジタルコレクション：
Perrault Charles : Histories or tales of past times told by Mother Goose with morals / 過ぎし日の物語集または昔話集・教訓つき. (Nonesuch Press, 1925)
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3947692>
- 12) 新国立劇：眠れる森の美女の作品概要
<http://www.nntt.jac.go.jp/ballet/sleeping/introduction/index.html> 2013-2015
- 13) 高橋義人：新書 グリム童話の世界—ヨーロッパ文化の深層へ—。pp.87-114 (岩波書店、東京、2006)
- 14) オーノワ夫人：La Princesse Rosette.上村くにご (訳) フランス妖精物語 トゼット姫. pp.1-71, 230-234 (東洋文化社、京都、1980)
- 15) チャコット株式会社：Chacott Book 2014
<http://www.chacott-jp.com/j/catalog/digital/2014/chacottbook2014/index.html#page=157> 2014
- 16) クララ編集部：Clara 12. pp.43-47 (新書館、東京、2007)

(受付 2015.3.25 受理 2015.6.8)